

コーパスを利用した韓国語学習者の高頻度語彙に関する考察
-생각하다 (考える) を中心に-¹
A Corpus Study of Korean Learners' High Frequency Vocabulary :
Saenggakhada

仲島淳子 (関西大学外国語教育学研究科)
Junko Nakajima (Kansai University, Graduate School of Foreign Language
Education and Research)

要旨

本研究は、韓国語を学ぶ日本語母語話者に焦点を当て、母語の影響による語彙の過剰使用と誤用についてコーパスを用いて他の言語圏の韓国語学習者及び韓国語母語話者と比較をし、「생각하다 (考える)」を中心に考察を行った。まず、日本語母語話者が他の言語圏の韓国語学習者に比べ書き言葉、話し言葉ともに「생각 (考え)」をよく使用しており、韓国語母語話者と韓国語学習者の使用語彙の比較では、話し言葉で使われる語彙に違いが多かった。次に、「생각하다」は、日本語母語話者の使用頻度が顕著に多く表れ、韓国語学習者は話し言葉より書き言葉で「생각하다」をよく使用するのに対し、韓国語母語話者は逆に話し言葉で「생각하다」を多く使用していたが、それでも韓国語学習者の話し言葉の使用頻度より低かった。最後に、日本語母語話者の「생각하다」の誤用は6級で最も多く、自身の願望や推測を述べる場面で婉曲的な用途で添加した「생각하다」を添削されたものが多かった。

キーワード 생각하다、高頻度、過剰使用 / Saenggakhada, High Frequency, Overuse

1. はじめに

第二言語を習得する過程において、学習者は母語の影響を少なからず受けるであろう。例えば、文章を構成する段階での語順や語彙といった部分、使用する段階での文化的な部分である。김(キム)他(2024)は、脈絡にはひとつの社会の歴史や制度、価値や信念、談話慣習のような言語の意味に影響を及ぼす文化的要因も含まれると述べている。白井(2011)は、言語と文化は切っても切れない関係にあり、言語と文化・思考の関係は外国語学習というレベルでは明らかに干渉してくるとし、このような文化的背景に根ざした言語転移の問題は、「語用論的転移」もしくは「社会言語学的転移」などとよばれ、かなりの研究があり、ある言語の話者が第二言語の発話行為を行う際、文化的なものがかなり転移すると述べている。日本語母語話者にとって、語順が同じであり、語彙についても

共に漢字語彙を多く用いる言語であること、また文化的な面でも尊敬語の使用など似ている部分が多い韓国語は、非常に学びやすい言語のひとつであると言えるが、母語の影響はこのようなメリットだけではなく、デメリットもある。本稿では、このデメリットに着目し、特に母語の影響による語彙の過剰使用と誤用について「생각하다 (考える)」を中心に考察することを目的とする。

1.1. 世界における韓国語学習者

世界的な韓流ブームにより、韓国語の学習者は増加している。韓国語と韓国文化の普及を目的とし、2012年に誕生した世宗学堂財団²は、2024年6月時点で、世界の258か所に世宗学堂を設置している。ベトナム23か所、中国21か所、日本16か所、アメリカ14か所がその上位である。また、韓国語の使用能力を評価する韓国語能力試験

³は、1997年に2,692名であった受験者数が2023年には世界97か国で333,289人が受験し、過去5年間で121万名を超す韓国語学習者が韓国語能力試験を受験している。

2. 先行研究

岩田・小西(2015)は、日本語母語話者の話し言葉コーパスにおける文法の出現頻度の調査結果から「～と思う」を高頻度項目として挙げている。

Ishikawa(2013)では、英語母語話者とアジア圏の英語学習者の語彙使用頻度について調査し、「思う」の英語に当たる「think」を、他のアジア圏の英語学習者より日本語母語話者が過度に使用していることを述べている。

小宮(2020)は、Ishikawa(2013)の日本語母語話者が「think」を過度に使用しているという研究結果を受け、日本語の「と思う」と英語の「think」を比較し、日本人英語におけるI thinkの多用には「と思う」のモダリティ機能の投影が関与しているとしている。モダリティを「話し手の主観的判断や聞き手に対する発話態度の現れ」と捉えている。そして、「と思う」の3機能を次のように区分している。①本動詞として対象や事象への思考活動そのものを示す「概念的意味機能」、②命題内容モダリティ「他にも可能な選択肢がある」と話者が判断していることを示す用法、③発話態度モダリティであり、聞き手を意識して話者のcommitmentの印象を弱めることで丁寧さを示そうとする緩和表現としての機能である。

양(ヤン)(2018)は、中国語圏の学習者に対する韓国語の教育用婉曲表現の等級化にあたり、日常生活の中での活用頻度と、中国語の婉曲表現との類似性・意味透明度・構成語彙の難易度を複合的に考慮した等級化を行っている。活用頻度については、活用頻度が高い語彙をまず教育しなければならないとし、難易度については婉曲表現の類似性を最も優先すべきであるとしている。

안(アン)(2004)は、細かな文法項目や語彙項目に対し、日韓両言語間の差を看過したり十分に学習できない日本語圏学習者らは初級から上級ま

で繰り返し類似した誤用を起こすとし、誤用を起こす可能性の高い項目については教育を強化して誤用を予防する必要性を述べている。そして日本語圏学習者の誤用を4つの<単語領域>、それぞれ3つずつの<名詞句領域>と<動詞句領域>、2つの<文章領域>、1つの<談話領域>の合計13の類型に分類し考察を行っている。しかし「생각하다」の誤用については言及されていない。

3. 研究デザイン

3.1. リサーチクエスション

本研究では、韓国の国立国語院が構築する大規模コーパスを用い、日本語母語話者その他の言語圏の韓国語学習者が使用する語彙の比較、さらに韓国語母語話者との比較をすることにより、日本語母語話者の語彙使用について客観的なデータに基づいて分析することを目的とし、次のリサーチクエスションを設定する。

RQ①日本語母語話者その他の言語圏の韓国語学習者が使用する韓国語の語彙に違いはあるのか、また韓国語母語話者が使用する語彙との違いはあるのか。

RQ②日本語母語話者その他の言語圏の韓国語学習者が使用する「생각하다」の使用頻度に違いはあるのか、また韓国語母語話者が使用する「생각하다」の使用頻度との違いはあるのか

RQ③日本語母語話者の「생각하다」の誤用出現頻度は習熟度別でどのように変化するのか。

3.2. データ

本研究で使用するデータは、韓国語学習者及び韓国語母語話者のコーパス資料から収集したものである。まず、韓国語学習者の資料として、韓国の国立国語院が、2015年5月から2022年12月まで、146の国籍、101の言語圏で、第二言語あるいは外国語として韓国語を学ぶ学習者が産出したテキストと談話資料を集めた「한국어 학습자 말뭉치(韓国語学習者コーパス)⁴(以下、学習者コーパス)」の「원시 말뭉치(平文コーパス)(以

下、平文コーパス)」を用いる。コーパスの規模は表1のとおりである。

表1 学習者コーパス構築規模

(上段：語節数、下段：標本数)

	合計	書き言葉	話し言葉
平文コーパス	6,230,590	4,407,583	1,823,007
	41,020	37,300	3,720
形態素解析コーパス	4,013,233	2,760,085	1,253,148
	26,763	23,975	2,788
誤用コーパス	1,346,015	674,636	671,379
	7,749	6,242	1,507

(国立国語院 HP より引用 (著者翻訳))

研究対象は、図1の言語圏別構築現況の上位4言語に該当する、中国語 15,475 人、日本語 5,785 人、ベトナム語 5,705 人、英語 2,692 人の内、習熟度6級以上と情報無を除いた1級から6級のデータとする。

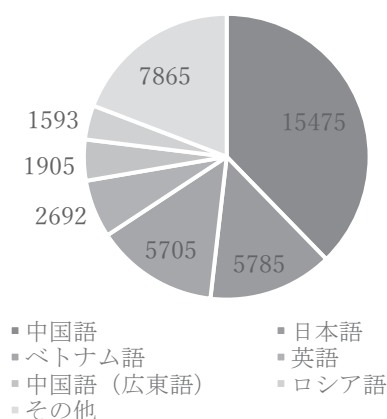


図1 学習者コーパス言語圏別構築現況

(国立国語院 HP より引用)

各言語圏別の語節数は表2の通りである。

表2 平文コーパスの言語圏別語節数

(上段：書き言葉、下段：話し言葉)

言語圏	レベル						総合計
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
中国語	227449	241784	284901	297548	396905	249555	1698142
	51834	68927	69867	66950	43765	54345	355688
日本語	51195	119464	132526	147825	118760	77720	647490
	14844	30422	34578	52863	42303	37927	212937
ベトナム語	115089	98755	105413	112725	58643	23430	514055
	49949	64064	72859	76341	66309	10502	340024
英語	51220	78590	74907	56971	48835	35067	284665
	10644	18766	15084	7002	10860	2282	64638

次に、韓国語母語話者の資料として、韓国の国立国語院が2021年8月19日に公開した「국립국어원 비출판물 말뭉치 (国立国語院非出版物コーパス) (버전 1.0)」より、「개인적 글쓰기 자료 (個人的執筆資料) 5」(以下、母語話者書き言葉コーパス)、そして2021年5月31日に公開した、「국립국어원 일상 대화 말뭉치 (国立国語院日常対話コーパス) 2020 (バージョン 1.1) 6」(以下、母語話者話し言葉コーパス)を用いる。

3.3. 方法

RQ①②での学習者コーパスの分析には、書き言葉、話し言葉におけるそれぞれの言語圏の語彙使用頻度を韓国国立国語院の検索プログラム「한마루 (ハンマル) 2.07」を使用し調査する。その際、母語欄に2つの言語が記載されている場合は、前に記載された言語で分類した。母語話者書き言葉コーパス、母語話者話し言葉コーパスの分析には、「KH Coder 3. Beta. 03i (樋口、2020)」を使用し調査する。RQ③は、国立国語院のIP上で提供されている学習者コーパス의 오류 주석 말뭉치 검색 (誤謬注釈コーパス検索) 機能を用い、日本語母語話者の「생각하다」の誤用を他の言語圏の韓国語学習者と比較しながら習熟度別に調査する。

4. 結果と考察

4.1. 使用語彙の比較

4.1.1. 韓国語学習者の使用語彙

表3は、学習者コーパスの書き言葉において、

出現した実質形態素の上位 20 語を各言語圏別にリスト化したものである⁸。

表3 言語圏別高頻度語（書き言葉）

順位	中国語母語話者			日本語母語話者			ベトナム語母語話者			英語母語話者		
	形態素	品詞	出現数	形態素	品詞	出現数	形態素	品詞	出現数	形態素	品詞	出現数
1	있	VV	27,885	있	VV	17,367	이	VCP	8,039	있	VV	6,493
2	이	VCP	26,703	이	VCP	16,564	있	VV	7,199	이	VCP	6,373
3	하	VV	17,822	하	VV	14,994	저	NP	4,790	하	VV	5,357
4	사람	NNG	15,132	사람	NNG	7,346	하	VV	4,731	사람	NNG	3,372
5	저	NP	12,108	생각	NNG	6,197	사람	NNG	4,019	가	VV	2,960
6	나	NP	10,330	나	NP	5,959	한국	NNP	3,121	저	NP	2,764
7	중	VA	10,310	가	VV	5,868	가	VV	2,879	친구	NNG	2,705
8	친구	NNG	9,965	친구	NNG	5,528	나	NP	2,809	나	NP	2,530
9	가	VV	9,678	되	VV	5,427	친구	NNG	2,773	한국	NNP	2,454
10	한국	NNP	9,493	한국	NNP	5,082	많이	MAG	2,618	중	VA	2,002
11	우리	NP	7,933	때	NNG	4,985	중	VA	2,290	때	NNG	1,954
12	생각	NNG	7,914	중	VA	4,914	우리	NP	2,283	되	VV	1,879
13	되	VV	7,621	없	VA	4,451	때	NNG	2,189	많이	MAG	1,852
14	많이	MAG	7,550	많이	MAG	3,571	되	VV	2,072	생각	NNG	1,789
15	때	NNG	7,440	그	MM	3,566	생각	NNG	1,689	우리	NP	1,769
16	많	VA	6,532	보	VV	3,549	공부	NNG	1,680	없	VA	1,682
17	없	VA	6,487	일본	NNP	3,530	베트남	NNP	1,574	보	VV	1,658
18	보	VV	6,206	많	VA	3,499	좋아하	VV	1,464	많	VA	1,499
19	좋아하	VV	5,605	저	NP	3,460	같이	MAG	1,438	먹	VV	1,468
20	같이	MAG	5,576	일	NNG	3,122	일	NNG	1,411	그	MM	1,246

出現数が 20 位以内で、日本語母語話者にのみ見られるものは「일본 (日本)」、ベトナム語母語話者にのみ見られるものは「공부 (勉強)、베트남 (ベトナム)」、英語母語話者にのみ見られるものは「먹다 (食べる)」であった。「일본 (日本)」「베트남 (ベトナム)」といった学習者自身の出身国が、それぞれ出現数で上位の語彙として現れたことについては、中国語母語話者でも「중국 (中国)」、英語母語話者でも「미국 (アメリカ)、영국 (イギリス)」といった語彙を上位で確認できる。それ以外の語彙も英語母語話者の「공부 (勉強)」を除き、他の言語圏でもすべて 30 位以内で確認できたが、英語母語話者の「공부 (勉強)」は、41 位と他の言語圏に比べ使用頻度が少し低い傾向であった。一方、20 位以内で日本語母語話者には見られないものは「우리 (私たち)」、ベトナム語母語話者に見られないものは「없다 (ない・いない)、보다 (見る)、많다 (多い)」などがあつた。また、「같이 (一緒に)」は中国語母語話者とベトナム語母語話者、「그 (その)」は日本語母語話者と英語母語話者、

「일 (こと)」は日本語母語話者とベトナム語母語話者で 20 位以内に現れるが、他の言語圏では見られないといった語彙もあつたが、いずれも 30 位以内に位置していた。しかし、「좋아하다 (好む)」のみ他の言語圏に比べ日本語母語話者使用頻度が低く 42 位であった。

そして、日本語母語話者の語彙で特徴的に表れていたのが、名詞「생각 (考え)」であり、全体語彙の中で出現数は 5 位であつたのに対し、中国語母語話者は 12 位、ベトナム語母語話者は 15 位、英語母語話者は 14 位となっており、日本語母語話者が「생각」を他の言語圏の韓国語学習者に比べよく使用していることがわかる。

表 4 は、学習者コーパスの話し言葉において、出現した実質形態素の上位 20 語を各言語圏別にリスト化したものである。

表4 言語圏別高頻度語（話し言葉）

順位	中国語母語話者			日本語母語話者			ベトナム語母語話者			英語母語話者		
	形態素	品詞	出現数	形態素	品詞	出現数	形態素	品詞	出現数	形態素	品詞	出現数
1	어	IC	14,388	이	VCP	3,021	어	IC	9,695	어	IC	2,346
2	음	IC	8,181	음	IC	2,960	음	IC	5,628	아	IC	1,912
3	이	VCP	5,911	어	IC	2,773	아	IC	5,200	네	IC	1,349
4	네	IC	5,067	네	IC	2,751	베	IC	4,885	음	IC	927
5	있	VV	4,690	있	VV	2,614	저	NP	3,834	하	VV	769
6	저	NP	4,417	하	VV	2,538	이	VCP	3,259	이	VCP	752
7	하	VV	3,988	아	IC	2,435	있	VV	2,984	있	VV	690
8	그	IC	2,985	그	IC	1,959	하	VV	2,386	저	NP	518
9	아	IC	2,865	저	NP	1,301	한국	NNP	1,773	가	VV	499
10	가	VV	2,251	사람	NNG	1,174	엄	IC	1,367	한국	NNP	464
11	친구	NNG	1,929	가	VV	1,020	그	IC	1,334	많이	MAG	314
12	사람	NNG	1,907	생각	NNG	854	가	VV	1,323	사람	NNG	308
13	한국	NNP	1,780	되	VV	832	베트남	NNP	1,269	친구	NNG	307
14	때	NNG	1,668	그	MM	811	많이	MAG	1,261	중	VA	265
15	되	VV	1,667	때	NNG	743	사람	NNG	1,205	엄	IC	248
16	많이	MAG	1,610	일본	NNP	736	되	VV	1,097	때	NNG	245
17	중	VA	1,493	많이	MAG	712	중	VA	1,075	없	VA	210
18	없	VA	1,402	중	VA	665	오	VV	979	제	NP	209
19	생각	NNG	1,376	없	VA	632	안	MAG	964	되	VV	206
20	우리	NP	1,375	한국	NNP	609	우리	NP	806	안	MAG	190

出現数が 20 位以内で、日本語母語話者にのみ見られるものは「일본 (日本)」、ベトナム語母語話者にのみ見られるものは「베트남 (ベトナム)、오다 (来る)」、英語母語話者にのみ見られるものは「제 (私の)」であり、ベトナム語母語話者のみ「때 (時)、없다 (ない・いない)」が 20 位までに入ら

なかった。「일본 (日本)」「베트남 (ベトナム)」といった学習者自身の出身国については、書き言葉と同じ現象と考えられ、それ以外の語彙も日本語母語話者の「엄 (ウーン)、우리 (私たち)」を除き、他の言語圏でも多くは 20 位台で 41 位までですべて確認できた。しかし、日本語母語話者の発話には「엄 (ウーン)」は 1 語も現れておらず、「우리 (私たち)」は 61 位と他の言語圏に比べ使用頻度が少し低い傾向であった。フィラーである「엄 (ウーン)」をまったく用いないことについては、他の言語圏では「음、엄、암、응 (いずれもウーン)」といったものが見られるのに対し、日本語母語話者は「음 (ウーン)」しか出現しておらず、閉音節が多い他の言語圏とは異なり、日本語は閉音節が少ないことが関連していると推察されるが、こちらについては別途検証が必要である。

そして、書き言葉で確認した日本語母語話者の語彙で特徴的に表れていた名詞「생각」については、全体語彙の中で出現数は日本語では 12 位、中国語母語話者は 19 位、ベトナム語母語話者は 32 位、英語母語話者は 28 位となっており、話し言葉でも日本語母語話者が「생각」を他の言語圏の韓国語学習者に比べよく使用していることがわかる。

そして、「생각」の書き言葉、話し言葉を合わせた出現頻度を習熟度別に見た順位が次の表 5 である。

表 5 「생각」の出現頻度順位

(単位: 位)

母語	習熟度					
	1급	2급	3급	4급	5급	6급
中国語	200	78	22	9	5	5
日本語	165	38	12	5	5	5
ベトナム語	190	86	25	15	6	7
英語	195	71	22	6	5	6

何れの言語圏においても、「생각」の使用は 2 級以降に急激に増え、日本語母語話者は 3 級からそれ以外の言語では 4 級以降の韓国語使用場面において、非常に使用頻度の高い語彙となり、5 級・6 級の上級者においては上位 10 位内の高頻度語彙

となっていた。

4.1.2. 韓国語母語話者の使用語彙

表 6 は母語話者書き言葉コーパスおよび母語話者話し言葉コーパスにおいて、出現した実質形態素の上位 20 語をリスト化したものである。

表 6 韓国語母語話者高頻度語

順位	書き言葉			話し言葉		
	抽出語	品詞	出現数	抽出語	品詞	出現数
1	이다	VC	3,902	하다01	VV	17,232
2	하다01	VV	1,847	있다01	Sonzai	16,957
3	있다01	Sonzai	1,682	이다	VC	16,304
4	나03	NP	1,590	그01	MM	14,736
5	되다01	VV	1,300	같다	VA	11,339
6	없다01	Sonzai	968	뭐	NP	9,930
7	생각01	NNG	944	되다01	VV	9,413
8	그01	MM	928	보다01	VV	8,880
9	사람	NNG	809	좀	MAG	8,446
10	보다01	VV	770	생각01	NNG	8,299
11	같다	VA	712	그런01	MM	7,990
12	말01	NNG	669	이제01	MAG	7,880
13	때01	NNG	628	저03	NP	7,808
14	아니다	VC	617	많이	MAG	7,135
15	내04	NP	603	가다01	VV	6,637
16	가다01	VV	530	때01	NNG	6,589
17	일01	NNG	488	나03	NP	5,291
18	더01	MAG	469	좋다01	VA	4,923
19	내14	MM	447	또	MAG	4,905
20	이05	MM	442	좋아하다	VV	4,832

表 6 の書き言葉で上位 20 位に入った語彙と、表 3 との重なりを比較したところ、日本語母語話者は 13 語、英語母語話者は 12 語、中国語母語話者は 11 語、ベトナム語母語話者は 10 語が重なっていた。また、表 6 の書き言葉で上位 20 位の頻出語彙は、冠形詞「내 (私の)」を除き、韓国語学習者の各言語圏別高頻度語彙の順位ですべて 60 位までには現れ、それら上位 20 位の語彙の出現順位の平均で見ると、日本語母語話者 16.7 位、英語母語話者 17.8 位、中国語母語話者 20.7 位、ベトナム語母語話者 23.7 位となり、日本語母語話者の順位が他の言語圏に比べ上位に現れる結果となった。冠形詞「내 (私の)」については、学習者コーパスでは名詞 (NP) で分類されていたため、どの言語圏でも確認することができなかった。

話し言葉で上位 20 位に入った語彙を、表 4 と

の重なりで比較したところ、日本語母語話者は 11 語、中国語母語話者は 10 語、英語母語話者は 9 語、ベトナム語母語話者は 8 語となっていたが、書き言葉とは異なり、日本語母語話者のみ 20 個の頻出語彙が 90 位以内で確認できたが、他の言語圏では 300 位を超えるものもあった。また、副詞「이제 (もう)」については中国語母語話者を除き、上位 500 位までの語彙の中に入らなかった。中国語母語話者で 259 位に入ったが、実際の用例を確認すると用途に違いがみられた。〈 〉内はコーパスの種類・標本番号、下線は著者による

- (1) 핑크색도 막 찬란하고 이제 벚꽃도 많이 피고 길을 가다 보면 온 꽃들이 이제 겨울을 이기고 이제 피어나는 걸 보면 되게 아름답다는 생각을 많이 했거든요. (ピンク色もきらびやかで、桜もたくさん咲いていて、道を歩くとすべての花が冬に勝ち咲き始めるのを見ると本当に美しいと思いました) <母語話者話し言葉コーパス・SDRW2000000187>
- (2) 그래가지고 아~ 어떡하지 어떡하지 이러면서 있는데 그러다가 어느새 이제 내려야 할 시점이 왔는데도 불구하고 이제 빠쓰 카드에 여전히 그~ 단 카드를 빠쓰 단말기에 여전히 카드를 찍지를 못한 거죠. (それで、あ~どうしよう、どうしよう、していたんですが、そうしていたらいつの間にかもう降りなければいけない時が来たにもかかわらず、パスカードに、相変わらず、その~、端、カードをパス端末機にそれでもカードをタッチできなかったんですよ) <母語話者話し言葉コーパス・SDRW200000001>
- (3) 그대 이렇게 생각해서 앞으로 이제 행복할 수 있다 이렇게 생각하면서 지냈어요. (その時、こう思ってこれから幸せになれる、とこう思いながら過ごしました) <学習者コーパス・04967>

(1) (2) で韓国語母語話者が使用する「이제 (もう)」は、中国語母語話者の (3) と同様に本来の意味である「もう」として用いている部分もあるが、韓国語母語話者は「이제 (もう)」をフィラーのように用いる場合があり、(1) (2) でもそれが現れている。

以上のように、韓国語学習者の話し言葉で使用される語彙は、書き言葉に比べると韓国語母語話者と異なる面があった。양 (ヤン) (2018) は、教育用語彙の等級化において活用頻度が高い語彙をまず教育しなければならないことに言及している。また、김 (キム) (2009) は、外国人のための韓国語文法内容設定に関する考察において、その決定基準となる難易度と使用頻度のうち、使用頻度を優先することを提案している。そして、学習者のための韓国語文法は、その文法教育の目標が意思疎通能力向上である点を勘案し、口語的特性もともに反映した記述がなされなければならないと述べている。こうした使用頻度や意思疎通力向上のための口語的特性を重視すべき点については、韓国語文法教育の内容設定だけでなく、語彙教育の内容設定にも当てはめていくべきであろう。

そのため、韓国語母語話者が実際に使用する語彙と韓国語学習者の使用語彙に違いがあるという現状は、今後改善の必要があると思われる。

4.2. 생각하다の比較

4.2.1. 韓国語学習者が用いる생각하다

4.1. では、韓国語学習者および韓国語母語話者の使用語彙について、その頻度を見てきた。ここでは、日本語母語話者の使用頻度が高かった「생각」に動詞「하다 (する)」が接続した、思考動詞「생각하다」について考察する。

表 7 は、学習者コーパスの書き言葉で出現した「생각하다」の数と一万語当りの出現数である。

一万語当たりの出現数は、中国語母語話者 60.7 個、日本語母語話者 95.55 個、ベトナム語話者 43.28 個、英語母語話者 49.46 個となっており、他の言語圏に比べ日本語母語話者の「생각하다」の使用頻度が高かった。

表 7 言語圏別「생각하다」の出現数（書き言葉）

(上段:出現数、下段:一万語当たりの出現数)							
言語圏	1級	2級	3級	4級	5級	6級	総計
中国語	77	302	1346	2452	3932	2198	10307
	3.39	12.49	47.24	82.41	99.07	88.08	60.7
日本語	21	397	1116	2017	1656	980	6187
	4.1	33.23	84.21	136.45	139.44	126.09	95.55
ベトナム語	15	74	479	950	517	190	2225
	1.3	7.49	45.44	84.28	88.16	81.09	43.28
英語	9	85	249	440	389	236	1408
	1.76	10.82	33.24	77.23	79.66	67.3	49.46

また、習熟度に見ていくと、各言語圏共に1級から4級まで習熟度の上昇に伴い出現数が増加し、5級あるいは6級で減少していた。特に日本語母語話者については、2級以降の出現数は他の言語圏の韓国語学習者より顕著に多く表れた結果となった。

表8は、平文コーパスの書き言葉語節数の中で、「생각하다」の使用度数と未使用度数をクロス集計し、カイ二乗検定を行い、Cramer's Vで効果量を測定した結果であり、0.01%水準で有意差が見られた[$\chi^2(3)=1474.75$, $p<.001$, $V=0.832$]。そして、中国語母語話者、日本語母語話者、ベトナム語母語話者、英語母語話者の4つのグループの間に有意差があるかどうか、ボンフェローニの多重比較で検討したところ、それぞれの母語ごとに0.01%水準で有意差が見られた。中国語母語話者、日本語母語話者、ベトナム語母語話者、英語母語話者の書き言葉における「생각하다」の使用度数にはそれぞれ差があったということが確認された。

表 8 言語圏間の「생각하다」の使用頻度比較（書き言葉）

データ	1万語あたりの「생각하다」の使用頻度(回)	「생각하다」の使用度数		「원시 발문치」の書き言葉語節数	多重比較
		使用した文	使用しない文		
中国語母語話者	60.7	10307	1687835	1698142	***
日本語母語話者	95.55	6187	641303	647490	***
ベトナム語母語話者	43.28	2225	511830	514055	***
英語母語話者	49.46	1408	283257	284665	***

注) $p<.05$ *, $p<.01$ **, $p<.001$ ***, not significant = ns

表9は、学習者コーパスの話し言葉で出現した「생각하다」の数と一万語当たりの出現数である。

一万語当たりの出現数は、中国語母語話者 40.06 個、日本語母語話者 60.86 個、ベトナム語母語話者 30.64 個、英語母語話者 26.61 個となっており、他の言語圏に比べ日本語母語話者の「생각하다」の使用頻度が高かった。

表 9 言語圏別「생각하다」の出現数（話し言葉）

(上段:出現数、下段:一万語当たりの出現数)							
言語圏	1級	2級	3級	4級	5級	6級	総計
中国語	13	52	155	245	341	619	1425
	2.51	7.54	22.19	36.59	77.92	113.9	40.06
日本語	8	34	198	352	326	378	1296
	5.39	11.18	57.26	66.59	77.06	99.67	60.86
ベトナム語	30	34	179	261	466	72	1042
	6.01	5.31	24.57	34.19	70.28	68.56	30.64
英語	5	15	39	28	77	8	172
	4.7	7.99	25.86	39.99	70.9	35.06	26.61

また、習熟度に見ていくと、中国語母語話者と日本語母語話者は、1級から6級まで習熟度の上昇に伴い出現数が増加しているが、ベトナム語話者と英語母語話者は1級から5級まで習熟度の上昇に伴い出現数が増加した後、6級で減少していた。書き言葉と若干異なり、4級までは日本語母語話者の使用頻度が高く表れていたが、5級では言語圏による差があまりみられなくなった。

表10は、平文コーパスの話し言葉語節数の中で、「생각하다」の使用度数と未使用度数をクロス集計し、カイ二乗検定を行い、Cramer's Vで効果量を測定した結果であり、0.01%水準で有意差が見られた[$\chi^2(3)=331.07$, $p<.001$, $V=0.336$]。そして、中国語母語話者、日本語母語話者、ベトナム語母語話者、英語母語話者の4つのグループのあいだに有意差があるかどうか、ボンフェローニの多重比較で検討したところ、それぞれの母語ごとに0.01%水準で有意差が見られた。中国語母語話者、日本語母語話者、ベトナム語母語話者、英語母語話者の話し言葉における「생각하다」の使用度数にはそれぞれ差があったということが確認された。

表 10 言語圏間の「생각하다」の使用頻度比較
(話し言葉)

データ	1万語あたりの「생각하다」の使用頻度(回)	「생각하다」の使用度数		「원시 말뭉치」の話し言葉語節数	多重比較
		使用した文	使用しない文		
中国語母語話者	37.94	1425	354263	355688	***
日本語母語話者	61.06	1296	211641	212937	***
ベトナム語母語話者	30.58	1042	338982	340024	***
英語母語話者	26.26	172	64466	64638	***

注) p<.05*, p<.01**, p<.001***, not significant = ns

上記の学習者コーパスを用いた「생각하다」の使用頻度調査から、韓国語学習者は話し言葉より書き言葉で「생각하다」をよく使用するという結果となった。また、日本語「思う」、英語「think」の過剰使用と同様に、韓国語においても、日本語母語話者の「생각하다」の過剰使用が確認された。

4.2.2. 韓国語母語話者が用いる생각하다

母語話者書き言葉コーパス、母語話者話し言葉コーパスで現れた「생각하다」の数は表 11 の通りである。

 表 11 韓国語母語話者コーパスの
「생각하다」出現数

コーパスの種類	総語節数	出現数	1万語当たりの頻度
書き言葉	2,174,487	491	2.26
話し言葉	1,542,217	3,537	22.93

韓国語学習者が「생각하다」を話し言葉より書き言葉で多く用いているのに対し、韓国語母語話者の場合、一万語当たりの出現頻度は書き言葉で 2.26 個に対し話し言葉が 22.93 個となっており、全く逆の結果となった。さらに、韓国語母語話者が話し言葉のほうでより使用するとは言え、一万語当たりの使用頻度は韓国語学習者の使用頻度よりも低いことに注目したい。李 (2005) は、日本語の「～と思う」に対応する韓国語表現は大きく 3 つに分類でき、ひとつ目は「생각하다」、ふたつ目は文章の終わりの部分を「～인 줄 알았다 (～

だと理解していた (が))」「～일 것이다 (～だろう)」、「～일 것 같다 (～しそうだ)」といった他の表現で表す場合、最後にそれ自体が翻訳されない場合としている。李 (2014) は、「생각하다」と「思う」はヘッジとして機能する場合に違いを見せるとし、それは日本と韓国におけるポライトネス・ストラテジーの文化的違いにより起こると述べている。つまり、日本語母語話者と韓国語母語話者との間に見られる「생각하다」の使用頻度の差に限定して言えば、ポライトネス・ストラテジーの目的で日本語母語話者が「생각하다」を使用する場面で、韓国語母語話者は他の表現形式を使用するといったことを原因としてあげることができる。

4.1.2. で言及した通り、김 (キム) (2009) は、外国人のための韓国語文法内容設定に関する考察において、その決定基準となる難易度と使用頻度のうち、使用頻度を優先することを提案しており、また、学習者のための韓国語文法は、その文法教育の目標が意思疎通能力向上である点を勘案し、口語的特性もともに反映した記述がなされなければならないと述べている。

現状、韓国語学習者の「생각하다」使用は、韓国語母語話者と大きく異なっている。より使用頻度を優先とした、また、話し言葉の特性を反映した記述を用いた「생각하다」の指導が必要である。

4.3. 韓国語学習者の誤用

国立国語院のIP上で提供されている学習者コーパス의 오류 주석 말뭉치 검색 (誤謬注釈コーパス検索) で「생각」を検索し、その中から「생각하다」に関連する誤用を収集したものは、첨가 (付加)、대치 (置換)、누락 (脱落)、오형태 (誤形態)、어휘 (語彙)、음운 규칙 (音韻規則)、음소 (音素) があり、発音に関連する誤用である음운 규칙 (音韻規則)、음소 (音素) を除いた「생각하다」の誤用数は表 12 である。

表 12 「생각하다」の誤用数

(上段：書き言葉、下段：話し言葉)

言語圏	付加 (첨가)	置換 (대치)	脱落 (누락)	誤形態 (오형태)	語彙 (어휘)	合計
中国語	13	6				19
	3	3	2	1		9
日本語	9	5			2	16
		2		2	1	5
ベトナム語	5	7			2	14
		1		1		2
英語	3	9			3	15
						0

そして、表 12 に提示した「생각하다」の誤用出現数を習熟度別に分類し、さらに総誤用数に対するその割合を示したものが表 13 である。

表 13 習熟度別「생각하다」の誤用

(上段：생각하다の誤用数、下段：総誤用数)

言語圏	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計	생각하다の 誤用割合
中国語		2	5	4	9	8	28	0.07%
	6,157	7,094	7,266	7,566	7,170	6,447	41,700	
日本語		2	5	4	4	6	21	0.10%
	2,859	3,866	3,862	4,599	3,800	3,063	22,049	
ベトナム語			1	5	5	5	16	0.07%
	3,638	2,994	5,299	5,895	3,184	2,714	23,724	
英語	1	3	4	3	3	1	15	0.05%
	5,607	6,501	5,510	4,836	4,205	3,549	30,208	

「생각하다」の誤用数を全体誤用数の割合から見ると、中国語母語話者 0.07%、日本語母語話者 0.1%、ベトナム語母語話者 0.07%、英語母語話者 0.05%であり、他の言語圏と比較すると日本語母語話者で「생각하다」の誤用割合が高かった。そして、習熟度が中級以降に該当する 4 級以降も総誤用数が減少しているにも関わらず、「생각하다」の誤用数にあまり変化がないことがわかる。また、日本語母語話者については、6 級で「생각하다」の誤用数が最も多い結果であった。

他の表現形式を用いる場面で、思考動詞「생각하다」を誤って用いたものは、첨가 (付加)、대치 (置換)、어휘 (語彙) が該当する。それぞれの誤

用例は次の通りである。(() 内は添削内容、< >内は学習者の母語 (中国語：中、日本語：日、ベトナム語：ベ、英語：英)・コーパスの種類・標本番号・レベルを表記)

- (4) 저는(나+는) 찬성한다고(찬성+하) 생각한다.(ㄴ다+.) (私は賛成だと考える (賛成だ))
<ベ・書き言葉・6353・5 級>: 첨가 (付加)
- (5) 내가 생각하는 직업관은 자신의 만족감을 높이려고 일을 하는 것이 더 좋다고 생각한다.(좋+다+는+것+이+다+.) (私が考える職業観は、自身の満足感を高めようとする仕事をするのがより良いと考える (良いということだ)) <日・書き言葉・6637・6 級>: 대치 (置換)
- (6) 사람들이 잘 알아서 불리한 경우에 피해야 한다고 생각해서(판단+하+고) 그렇게 해야 한다. (人々がよくわかって不利な場合に避けなければならないと考えて (判断し) そうしなければならない) <ベ・書き言葉・13180・5 級>: 어휘 (語彙)

中国語母語話者と日本語母語話者では、대치 (置換) より첨가 (付加) の誤用が多いのに対し、ベトナム語母語話者と英語母語話者は反対に대치 (置換) が多い。中国語母語話者と日本語母語話者で첨가 (付加) が多い部分は共通するものの、その様相は若干異なる。

- (7) 지하철이나 버스에서 이런 노인들에게 무조건 양보하는 점에서(것+에) 반대한다고 생각한다(반대+하+ㄴ다) (地下鉄やバスでこのような老人たちに無条件に譲る点で (ことに) 反対だと考える (反対だ)) <中・書き言葉・11565・6 級>
- (8) 그래서 대학교를 졸업한(졸업+하+ㄴ) 후에는 한국어를 사용하는 일을 하고 싶다고 (싶) 생각한다.(다+.) (それで大学を卒業した後は韓国語を使う仕事をしたいと考える (したい)) <日・書き言葉・23736・4 級>

(9) 주말이나 시간이 날 때 봉사 활동에 참가하는 것이 더 좋지 않을까 싶다고 생각합니다. (싶+다+.) (週末や時間があるとき、ボランティア活動に参加するのがもっと良いのではないかと 思うと考えます (思います))

<日・書き言葉・25613・6 級>

中国語母語話者の場合、(7) の「반대한다고 생각한다 (反対だと考える)」といった、「-다고 생각하다 (〜だと考える)」の形式を使用している箇所を「반대한다 (反対だ)」と断定するよう添削されている誤用が書き言葉で 11 個、話し言葉で 3 個となっており、そのうち 9 個が「반대하다 (反対する)」「찬성하다 (賛成する)」という語彙を使用したものであった。一方、日本語母語話者の場合も (8) (9) のように「-다고 생각하다 (〜だと考える)」の形式を使用している箇所を断定するよう添削されている誤用が 7 個あったが、「반대하다 (反対する)」「찬성하다 (賛成する)」のように自身の意見を述べるような内容ではなく、自身の願望や推測を述べた内容を「-고 싶다(〜したい)」と添削されているものが 5 個となっていた。このように中国語母語話者の場合、「自身の考えは賛成である/反対である」といった、自身の意見を主張する場面で「생각하다」を用いていたが、日本語母語話者の場合、「〜したいと思う」や「〜じゃないだろうかと思う」のように、自身の願望や推測を柔らかく述べようと婉曲的な用途で「생각하다」を用いていた。この現象については、小宮 (2020) の日本人英語における I think の多用が「と思う」のモダリティ機能の投影が関与しているとした「話し手の主観的判断や聞き手に対する発話態度の現れ」と同様に、韓国語においても日本語の「と思う」の用法が影響していると思われる。日本語の「と思う」の用法が影響した「생각하다」の誤用は、本来は韓国語では「と思う」に該当する他の表現形式が対応するか、(7) ～ (9) のように断定する。この他の表現形式には、「-겠-」「-(으)ㄴ 것이다」「-(으)ㄴ까 하다」「-는/-(으)ㄴ/-(으)ㄴ 것 같다」「-(으)러/려고 하다」「-(으)면

하다」「-는/-(으)ㄴ/-(으)ㄴ 줄 알다」などが挙げられる。表 14 は、韓国語専攻課程が設置されている関西地方の大学で、初級の授業で使用されている教科書でのこれらの表現形式の出現状況を調査した結果である。

表 14 関西の大学で使用されている
初級教科書での出現状況

	ことばの 架け橋 改定版 ⁴⁾	ハングル マダン 改定版 ⁴⁾	初めての 韓国語 ⁴⁾	新・韓国 語へのと びら ⁴⁾	ハングルの とびら 1 ⁴⁾	最新チャ レンジ韓 国語 ⁴⁾
생각하다 ⁴⁾	○ ⁴⁾	○ ⁴⁾	○ ⁴⁾	○ ⁴⁾	○ ⁴⁾	× ⁴⁾
-겠- ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾
-(으)ㄴ 것이 다 ⁴⁾	× ⁴⁾	○ ⁴⁾	○ ⁴⁾	○ ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾
-(으)ㄴ까 하 다 ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾
-는/-(으)ㄴ /-(으)ㄴ 것 같다 ⁴⁾	× ⁴⁾	○ ⁴⁾	× ⁴⁾	○ ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾
-(으)러/려고 하 다 ⁴⁾	○ ⁴⁾	○ ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾
-(으)면 하다 ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾
-고 싶다 ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾
-는/-(으)ㄴ/-(으)ㄴ 줄 알다 ⁴⁾	○ ⁴⁾	○ ⁴⁾	× ⁴⁾	○ ⁴⁾	× ⁴⁾	× ⁴⁾

教科書で、該当形式の扱いがあり「思う」の説明があるものを「○」、扱いがあるが「思う」の説明がないものを「×」、扱いがないものを「-」で表している。「思う」の説明がすべての表現形式で行われている教科書はなく、全くないものもある。

日本語母語話者の韓国語学習者の全体的な誤用数は 4 級以降減少していく中で、「생각하다」の誤用は増加しており、また、「생각하다」の誤用は 2 級以降に発生していた。これは、そもそも教科書において「思う」について解説しているものがなく、学習者は「思う」に対応する他の形式を学んでいないことが原因と思われる。しかし、これらの形式を指導する時期については慎重にならなければならない。

김 (キム) (2020) は、口語文法の教育時期について、初級段階の学習者より中級、上級以上の学習者を対象にすることが望ましいとし、初級段階では定型化された文法表現に対する繰り返し練習が必要であり、定型化された文法表現の認識をパターンに口語文法に対する教育がなされるとより効果的であると述べている。これは、話し言葉で

は必ずしも定型化された文法表現のみを使用しているわけではないが、それを理解するためには、まず定型化された表現を学ぶべきであるということである。このことは、口語文法にのみ当てはまることではない。日本語の「思う」に対応する表現形式は「생각하다」だけではなく、ほかの表現形式が存在するが、その指導時期についてもやはり定型化されたものから始め、中級からより明確な「생각하다」を使用できる場面についての指導と、「と思う」に対応する韓国語の表現形式の指導をしていく必要がある。

5. まとめ

本研究は、韓国語を学ぶ日本語母語話者に焦点を当て、母語の影響による語彙の過剰使用と誤用について「생각하다」を中心に考察を行った。

学習者コーパスを用いた他の言語圏の韓国語学習者との比較では、韓国語学習者の韓国語使用語彙の種類には大きな違いはないが、日本語母語話者が他の言語圏の韓国語学習者に比べ書き言葉、話し言葉ともに「생각」をよく使用しており、またいずれの言語圏においても、「생각」の使用は2級以降に急激に増加し、非常に使用頻度の高い語彙であることがわかった。一方、韓国語母語話者の書き言葉コーパスと話し言葉コーパスを用いた韓国語母語話者と韓国語学習者の使用語彙の比較では、書き言葉では似た様相を見せるが、話し言葉では使用語彙の出現順位にかなり差が見られた。韓国語学習がコミュニケーションツールという目的であるとするならば、韓国語母語話者の使用語彙に基づいた学習語彙設定を進める必要があるのではないだろうか。

次に、「생각하다」の使用頻度については、他の言語圏の韓国語学習者に比べ日本語母語話者の日本語「思う」、英語「think」の過剰使用と同様に、使用頻度が顕著に多く表れた。また、韓国語学習者は話し言葉より書き言葉で「생각하다」をよく使用する結果となった。一方、韓国語母語話者は書き言葉より話し言葉で「생각하다」を多く使用していたが、その使用頻度は韓国語学習者の話し

言葉での使用頻度より低い結果となった。このような、韓国語学習者の「생각하다」の過剰使用と、韓国語母語話者が書き言葉より話し言葉でより高い頻度で「생각하다」を使用するとは言え、韓国語学習者の話し言葉の頻度以下であるといった韓国語母語話者の使用パターンを踏まえ、より韓国語母語話者の使用頻度を優先とした、また、話し言葉の特性を反映した記述を用いた「생각하다」の指導が必要である。

最後に、「생각하다」の誤用について、日本語母語話者の誤用が2級以降発生し、上級に当たる6級で最も多い結果となり、特徴として自身の願望や推測を述べる場面で婉曲的な用途で添加した「생각하다」を断定する形式に添削されたものが多かった。そのため、中級の時点でより明確な「생각하다」を使用できる場面についての指導と、「と思う」に対応する韓国語の表現形式の指導が必要である。

本研究では、国立国語院の韓国語学習者誤用コーパスから学習者の誤用を収集したが、日本語母語学習者の「생각하다」に関連する誤用はあまり多く確認されなかった。そのため、日本語母語話者の「생각하다」に関連する誤用をさらに収集し、それらを対象とした調査が必要である。また、日本語「思う」に対応する表現形式をより簡単に選択できるような学習のめやす、及び指導方法の提示を今後の課題としたい。

註

¹ 本稿は、Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, The 28th PAAL International Conference での「Misuse and overuse of “saeng-gakhada” by Japanese learners of Korean: Interference from the Japanese verb “omou”」のポスター発表資料をもとに加筆修正したものである。

² 2012年に設立された韓国政府が公認する韓国語教育機関である。世宗学堂数は2024年6月26日現在。

(<https://www.ksif.or.kr/sts/ksf/hkd/lochkd.do?menuNo=20101800>)

³ 韓国教育財団が主催する検定試験。1級は約800語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる程度の初級レベルに該当し、最上級は6級である。国立国語院のコーパスで使用されるレベルはこれに準ずる。

⁴ 말뭉치 나눔터より

(<https://kcorpus.korean.go.kr/index/goMain.do>)
2024年6月23日取得。

⁵ 小学生から80代の成人まで計5,937人が書いた、詩、日記、手紙、小説(童話)、感想文など全2,174,487語節から作成されている。

⁶ 15個の主題、13個の提示資料を対象に二人の話者が自由に対話した日常対話資料(計2,739名の話者、対話当たり約15分、計500時間分)から作成されている。

⁷ 韓国国立国語院の21世紀世宗計画で開発されたコーパス用例検索プログラムの2011年改訂版である。

⁸ 品詞記号の詳細は次の通りである。NNG:一般名詞、NNP:固有名詞、NP:代名詞、NR:数詞、VV:動詞、VA:形容詞、VCP:肯定指定詞 VCN:否定指定詞、MAG:一般副詞、IC:感嘆詞、MM:冠形詞

参考文献

- 안경화 (2004) 「일본어권 한국어 학습자의 언어 간 전이 오류 연구」『어문연구』제32권 제3호, 471-492, 한국어문교육연구회. (안·ギョンファ(2004)「日本語圏韓国語学習者の言語間転移誤謬研究」『語文研究』第32巻第3号、471-492、韓国語文教育研究会)
- 樋口耕一 (2020) 『社会調査のための計量テキスト分析 —内容分析の継承と発展を目指して— 第2版』ナカニシヤ出版。
- Ishikawa, S. (2013). The ICNALE and Sophisticated Contrastive Interlanguage Analysis of Asian Learners of English. *Learner Corpus Studies in Asia and the World*, 1, 91-118.
- 岩田一成・小西円 (2015) 「出現頻度から見た文法シラバス」『データに基づく文法シラバス』,

pp.87-108.くろしお出版。

- 김현지 (2020) 『외국인 학습자를 위한 한국어구어 문법』서울:하우. (キム・ヒョンジ(2020)『外国人学習者のための韓国語口語文法』ソウル:夏雨)
- 김재욱 (2009) 「한국어 문법 내용 설정 연구-교육 문법 내용의 영역, 등급과 순서 제시-」『문법 교육』제10집, 한국문법교육학회. (キム・ジェウク(2009)「韓国語文法内容設定研究—教育文法内容の領域、等級と順序の提示—」『文法教育』第10集、韓国文法教育学会)
- 김정숙, 최은지, 정명숙, 이승연, 김서형, 이유경, 정다운, 이지용, 이은희, 손다정, 전형길, 이연정, 한하림, 이아름 (2024) 『외국인 유학생을 위한 한국어학개론』서울:하우. (キム・ジョンスク、チェ・ウンジ、チョン・ミョンスク、イ・スンヨン、キム・ソヒョン、イ・ユギョン、チョン・다운、イ・ジョン、イ・우니、ソン・다정、한하림、이아름 (2024)『外国人留学生のための韓国語学概論』ソウル:夏雨)
- 金順玉・阪堂千津子 (2024) 『最新チャレンジ韓国語』白水社。
- 小宮富子 (2020) 「*I think* の多用に見る日本語モダリティの日本人英語への影響」『JACET 中部支部紀要』18巻, pp.55-70. 大学英語教育学会中部支部。
- 교육부 국립국제교육원 (2019-2023) 한국어능력시험(PBT) 시행 현황. (教育部国立國際教育院(2019-2023)韓国語能力試験(PBT)施行現況)
- 李鳳(2014)『「思う」と「생각하다(sayngkakhata)」の日韓対照研究—ヘッジとポライトネスの観点から—』、北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士学位論文。
- 李宗和(2005)『現代日本語における婉曲表現の研究』、大正大学大学院文学研究科博士学位論文。
- 松尾勇・金善美 (2009) 『初めての韓国語』同学社。
- 松崎真日・丁仁京・熊木勉・金昂京・李秀昊 (2020) 『ハングルマダン 改訂版』朝日出版社。

- 中島仁・金珉秀・吉本一 (2021) 『新・韓国語へ
のとびら』朝日出版社.
- 盧載玉・梁貞模 (2024) 『ハングルのとびら 1』朝
日出版社.
- 生越直樹・曹喜澈 (2016) 『ことばの架け橋 改訂
版』白帝社.
- 양정 (2018) 『한국어 완곡 표현 연구』서울:박문
사.(ヤン・ジョン(2018)『韓国語婉曲表現研究』
ソウル:博文社)